

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム やすらぎ**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ワーカー室・廊下に理念を提示し、それに基づいたサービス提供に努めている。	事業所の理念5項目をめざすものとして掲げ、利用者一人ひとりを大切に、地域の人や自然とふれあいながら暮らしながら行けるよう管理者・職員は日々話し合い実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には加入していないが、地域の公民館祭り・保育園の運動会・クリスマス会などへの招待をうけ地域との交流が保たれている。	地区の公民館祭りには、手話体操や踊りに参加して地域の方々と一緒に楽しんでいる。また、保育園の運動会を見に行くなど交流をしている。ボランティアの受け入れもあり、美容学校生からメイクやハンドセラピー・高校ギター部の演奏など地域活動や人々との関わりを積極的に行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同法人内の利用者との交流を行っており気軽に来居されている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度定期的を開催しており、市職員・家族代表・地区民生委員・事業所職員が参加し実績報告・行事報告等を行いホーム運営についてアドバイスを受けている。	運営推進会議は、実績報告・利用状況などの説明をアドバイザーや意見をもらっている。終末期の対応について、事業所でのケアサービスの取り組みを報告し理解してもらうように積極的に伝えている。事業所の畑に獣が来るので獣除けの柵を作るなど、具体的な課題を話し合い、委員が協力者として関わられる機会としている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困難事例の入居者・入退居時についての相談など情報交換の場を設けている。	入居者の資格有無について相談し指導を受けたり、利用者の暮らしぶりを具体的に伝え連携を深めるよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っておらず、玄関チャイムを設置してケアを工夫してとりくんでいる。	法人全体で身体拘束防止委員会があり、月1回管理者・リーダーは研修を受け、研修内容は全職員に回覧し共有している。スピーチロックは、引継ぎ時や会話の中で気が付けばお互いに注意している。利用者が戸外に出たい時には、チャイム音で職員と一緒に付き添い自由な暮らしの支援に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	併設の施設の職員が研修に行き、施設での伝達講習会を開いた際参加し学ぶ機会を持ちそれをホームに持ち帰り知識を共有している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設の施設との学習会で知識を共有して活用できるように取り組んでいる。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	毎年4月に算定見直しがあり、ご家族に説明し承諾を得ており、又新入居時の契約の際十分の説明し承諾を得ている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム やすらぎ**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族等にご意見・要望を聞くよう声をかけ話しやすい状況を作っている。家族への説明については管理者が行い不在時にはその時のトップが行い情報の混乱を防ぎそれらを運営に反映している。	年2回の家族会には、利用者・家族・職員が参加し、親睦を図り、意見や要望を言い易い機会となっている。家族からは、穏やかに暮らして欲しい・親睦会を楽しみにしているので増やしてほしい。との意見があり希望を取り入れるように努めている。法人内に苦情解決・自己評価委員会があり、入居時に説明をして意見・要望・不満を表せる場としている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング時各人意見を出しやすいよう話し合いの場を設けており・連絡帳での活用を生かし職員の連携を保っている。	朝夕の引継ぎ時や連絡帳で職員の意見を聞く機会を持ち、日頃から意見を言い易い関係にある。入浴補助員の要望があり検討中である。また、理事長の面談が年1回あり、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格奨励手当、外部より講師を招いて研修会を行ったり努力に報いる年度末手当などがある。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の各研究委員会に配属しており、それをホームに持ち帰っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者とネットワークづくりを行い交流を図っている。			
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、入居時ご家族と話し合いを持ちコミュニケーションをとっている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居時ご家族としっかりアセスメントを行い不安、要望などを聞いている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の状況について入居前のサービス事業者と連絡を取り合い、その方にとってベストの状況は何かを話し合っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を最優先に、それぞれの人生経験を活かせる働き方に努めている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム やすらぎ**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便り、家族会での際、家族と入居者との絆の大切さの話などをその都度説明している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方が見え、家庭の延長での様な雰囲気が保てるような場所の提供を行っている。又、地域社会との交流が継続できるような支援を行っている。	事前訪問時・以前利用していた事業所から情報を把握し対応している。家族の協力でゲートボールに参加している。また、子どもたちから見た利用者の生活歴(趣味・嗜好・印象に残っているエピソード等)を聞き取って積極的なアプローチが出来るように取り組んでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方々の人間関係に注意をし、職員が個々の入居者を把握し孤立せぬよう支え合う事に心がけている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養入所された方について、面会に出かけたりし、ご家族も「やすらぎ」へ立ち寄ってくださっている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、ご家族・事業所からのアセスメントを行ったり又特養での「生活歴の聞き取り」を参考にして、各ご家族に配布し記入していただきその方に合った支援の参考にしている。	家族から以前の暮らし方など様子を聞き、ここでの生活に結び付けている。利用者から以前読んでいた新聞の購読・仕事の手伝いをしたい。など希望があり思いを反映している。職員は、日々のケアの中から思いや意向を汲み取り把握している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	特養で使用している生活歴の資料を参考にし、各ご家族に記入していただいて支援の参考にし、全職員で共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルの定期的測定、生活状況の記録により職員間で話し合い共通認識できるように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間でその方のアセスメントをしっかり行い、入居者が自立的な生活を送れる様プランに反映するよう心掛けている。又ご家族にはアセスメントの流れをケアプラン承諾時提示し状態変化等をお知らせしている。	新規入居時は、利用者・家族から思いや意向を聞き、また、以前利用していた事業所での様子を参考に、暫定プランを立て1か月で見直しを行う。アセスメントを含め職員の意見を反映しモニタリングをし6か月で見直しをしている。変化があれば医師の意見を聞き現状に即した介護計画にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	当番が全員の個別記録を毎日行い、週毎にそれぞれの担当者がまとめ、急変時や見直し時に活用している。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム やすらぎ**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行事、外出時等事業所職員との交流を行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアとの交流、地元の保育園、地域との交流をできるだけ自由に行うよう心がけている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1度の嘱託医の往診時細かい報告を行い・受診要請時には病院医療連携室と連絡を取りご家族に受診をお願いし病院での説明は職員が付き添い対応している。ご家族が詳しい状況を把握している場合は・文書を持参していただき病院より返事を頂いてる。	入居時に家族から希望を聞き対応している。嘱託医の往診が週1回ありまた、法人の看護師が毎日来るなど連携を取っている。かかりつけ医の受診の際は、家族の対応で情報は文書で共有している。医療の総合的な判断が必要な場合は、家族の送迎で職員が同行し受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しの変化も医務に報告し看護師に見てもらい、状況により医師と連絡をとっており、医務の看護師は毎日訪問してくれて状況を把握している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の場合、病院の相談員が細目に連絡を下さり、病状報告、退院の調整、退院後は病院の担当者(リハビリ)と連絡を取って一日でも早く復帰できるように努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、契約時に重度化した場合における(看取り)指針について説明行いサインを頂いている。又高齢のご家族には終末期についてのホームでの対応を説明し、ご家族の希望を聞き取り承諾サインを頂いている。	入居時看取りについての指針を説明し確認をもらっている。状況に変化が生じた場合は、家族・医師・事業所と話し合い看取り介護計画確認書で同意を得ている。これまでの看取りの際には、夜勤帯の非常時には、法人の職員からアドバイスをもらい一緒に対応し連携が取れている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員も特養で得た経験を生かし、マニュアルをわかりやすい所に置いて急変時の対応を職員間で常に確認しあっている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月法人で行う防災委員会に参加し・防災訓練を常日頃行っている。年1回は地域の消防団の協力を得て法人全体の防災訓練を行っている。水害についての訓練も行っている。有事の際の防災食品の備蓄は行っている。	年1回法人合同で水害・火災訓練では消火器取扱いに利用者も一緒に体験しまた、9月の防災の日には、地域の消防署・消防団との訓練、第1避難所への経路確認訓練をしている。事業所独自では、非常招集連絡網訓練・夜勤時の新人職員への訓練を行っている。今後は、地域の課題でもある土石流・雪害についての検討を始める。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけの仕方については・常に職員間で認識しお互い気が付いた時には注意しながら支援にあたっている。個人情報についてはワーカー室で管理行っている。	職員は日常、利用者のその人らしい尊厳ある姿を大切に接し、入浴時の衣服着脱については、一人ひとりの状況に合わせた支援を行っている。全職員その人の守るべき情報を、漏らさない守秘義務について理解し人権意識を徹底している。		



自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム やすらぎ**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けと傾聴に努め、本人の希望が活かせる支援に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の今までの暮らしぶり、性格を把握し、強制することなく本人の過ごしやすいように生活が送れるよう支援に心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院へ1ヶ月に1度出かけ、出かけられない方については出張してもらい散髪していただいている。外出時にはおしゃれについて助言を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地元の新鮮な食材を提供し個人の好きなメニューを聞きながら献立に反映し役割分担を行い準備・片づけなどを行っている。嚥下、咀嚼困難な方が出てきているが、その方に合ったキザミ、ミキサー食を提供している。	献立は、利用者の好みを聞きながら職員が1週間分立てている。行事食は利用者に関心、おはぎ・繭玉・ギョーザなど一人ひとりの力を活かしながら職員と一緒に作り、年2回の外食や新鮮な食材の買い物には利用者と一緒にしている。季節の花が飾ってあるテーブルで職員も一緒に会話をしながら楽しく食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取の適量については本人の希望に添ったり体重の増減、体調などを話し合い調節を行っている。献立については職員が1週間交代で作成しそれについて話し合いを行い、職員同士でアドバイスを出している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員歯磨きを行っている。週2回義歯を消毒液につけて清潔保持に努めている。義歯の不都合などが生じた場合医師の往診をお願いする体制ができています。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を行い排泄パターンを把握し、その方にあった声掛け誘導助助を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、職員はトイレ誘導など個別にさりげなく支援をしている。リハビリパンツからトイレ誘導で自立になった経緯があり、職員は、身体機能に応じ見直しをきめ細やかに行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンを記録につけて、水分補給、下剤等を服用し、個々に合った対応を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	15:00~18:00まで職員1名が見守り介助し、いつでも入浴できる体制をとっている。普通浴が困難になってきている方々が出てきているがその方に合った入浴方法で対応し時には2名介助を行っている。	基本的に週2回の対応となっている。身体的に入浴困難な利用者は、職員2人の対応で安心して入浴できるような支援をしている。入浴拒否の利用者には、家族が訪問した折に会話の中から納得してもらおう等の工夫をし、個々に添った支援をしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム やすらぎ**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活歴等に合せて、照明器具の対応をし、日中も休みたい方については居室で休んでいただき本人のペースで生活して頂いている。夜間2時間毎に巡視、確認、訴えに対応できる状況をつくっている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服については、薬の説明書を確認し職員間で知識を共有し誤薬がないよう配薬と飲み込み時の確認を別の職員が確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時のアセスメントと日々の会話を通して、これまでの経験が活かせるレクリエーションの設定を行ったり、役割分担をしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	リハビリを兼ね敷地内の散歩は日課とし、季節に応じた外出を行ったり家族会でのバス旅行などをおこない外出の機会を多く持てるような支援に心がけている。外出困難な入居者の方については、ご家族に協力をお願いしている。	家庭菜園で作った野菜の収穫に行き五感を刺激したり、収穫した野菜の下ごしらえもしている。、天気の良い日には、ベランダに出て外気浴をしている。地域の桜前線に添って花見をしたり、家族の協力で、ホテルでの外食・新緑と紅葉の季節に年2回小海線でのローカル線の旅などを楽しんでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が管理している入居者がほとんどであるが、買い物に行き自由に使える体制をとっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を掛けられるような体制をとっている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じるようテーブルには常に花を飾ることに心がけて季節を忘れないような配慮を行っている。夜間明かりが苦手な方については入居時間き取り暗くして休まれるよう対応したり、足元が不安な方には足元電気をつけるような対応を行っている。	玄関には、利用者が作ったフクロウの置物や百人一首を書いた作品や習字が飾ってある。共有の空間である食堂・居間は広く、窓からの明るい陽射しが過ごし易い場所となっている。椅子式炬燵が2つあり、南アルプスの展望を見られ心地良く過ごせる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを何力所かに置き、集える空間を設置している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時・使い慣れた私物を持参していただき、ご家族と飾り付けて居心地良く過ごせるような工夫をしていただいている。	事業所の備え付け以外の品々は、家族の協力で部屋作りされ、職員と一緒に書いた書道や孫の書道の作品が飾ってあり、自宅に居る様に工夫されている。また、床から天井まで届くようなパイプのステーム式暖房機器や二重サッシ対応で寒冷地仕様になっている。利用者にとって安全で居心地良く過ごせる居室となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	者の配置の工夫により、手すりなどを活用しやすくしたり作業台の高さ等工夫している。			